

アシュタ・ヴァイジャの伝統と来日するラヴィ・ムース医師



最近日本でも耳にするようになったインドの古代医療システムであるアーユルヴェーダにおいて、そのメッカのように捉えられているのが南部のケララ州になります。インドの中でもアーユルヴェーダクリニックの数、医師の数、製薬会社の数ともに断トツとなっています。

アーユルヴェーダの医療では、その医師はヴァイジャと呼ばれています。以前はアーユルヴェーダの医者の家系に生まれた者だけが、一子相伝でその知識を受け継いでいましたが、戦後は大学の医学部過程で五年半学び、卒業すれば誰でも、アーユルヴェーダ医となることが出来るようになりました。

その学位は、アーユルヴェーダ・医学・外科学位(BAMS…Bachelor of Ayurveda Medicine and Surgery)と呼ばれ、最低限この資格がないとインドでアーユルヴェーダ医として診察に当たることは出来ません。

そのケララ州を18世紀に統治していた日本で言う大名に当たるラージャは、18地区ある各地に一人のアーユルヴェーダ医を認定し、その18家族に秘伝書(アシュタンガ・リダヤム)を授けました。それはアーユルヴェーダの8つの分野(一般内科、小児科、心療内科、耳鼻咽喉頭部科、解毒科、外科、薬学、生殖医学)全てを網羅したものでした。それゆえ、この18家族は、8つの分野に精通していることからアシュタ(8)ヴァイジャ(医師)と呼ばれて、ある種別格の見方をされています。因みに大学の医学部でアーユルヴェーダを専攻すると、このうちのどれか一つの分野で学位を取るようになります。

ところが、時の変遷とともに、当初18あった医師の家系も現在継続して医療に当たっているのは、ケララ全土でも5家族になってしまいました。今回のラヴィ・ムース先生はその5家族の一つの系譜を継いでいる方になります。また、上の写真の右に写っているラヴィ・ムース先生のお隣に立つ父君はビートルズのグルとして有名なマハリシ・マヘッシュ・ヨーギの主治医をされていた方です。

ラヴィ先生のケララ州のコーチン市の郊外にあるクリニックは椰子の木に囲まれたアットホームな施設で、パンチャカルマと呼ばれるデトックスの施術は一年前には、予約で埋まってしまいます。{<http://www.mooss.com>}



今回のラヴィ先生の来日では、10月6日に主に講義主体の2つのワークショップ、翌7日には、実技主体の2つのワークショップが開催されます。また、10月8日と10日には、個別コンサルテーションも予定されています。この機会に是非、本場インドの正統なアーユルヴェーダの世界に触れてみてください。

2016年9月吉日

内容に関するお問合せ先:info@tenkooann.com